

森泉社だより

第 8 号
H. 2. 12. 1

年末・年始の行事あれこれ

庄 司 善 男

一見、無意味に思えるような行事や習慣にも、必ずや我々の知恵と科学的精神の裏付けがなされています。そういつた風習を切り捨てることをせず、再度、見直していくことで、私たちが最近、忘れかけていた日本人の心を取り戻すことが出来るかも知れません。

〇 又々、五土（とうじ）
冬至には、かぼちゃを食べる習慣があります。中風にな

らない、カゼをひかない、邪魔除けにならない、あるいは魔除けになるといわれるからです。これは栄養学の知識などをもち合わせなかつた昔の人々が体験的に習得した生活の知恵なのです。

〇 年越しそば

江戸時代、金銀細工師たちは、一年の仕事を終えると、ほうぼうに散つた金粉や銀粉をかき集めるためにそば団子を作つて畳や床をたたきました。こうすると団子に金粉、銀粉が付くので、これを焼くとそばは灰になり、金粉、銀粉だけは残りまし。知恵です、そばは金を集める、伝わり、そばは金を集める、

したがって大晦日にそばを食べると翌年も金がよく残るといふふうになり、年越しそばの習慣ができ上がったと言われま。私も毎年、合川町道城の手打そばを大晦日に食べています。そばをそのご利益の程は？

〇 除夜の鐘

これは仏教に由来するもので、生来人間には百八つの煩悩（ぼんのう）の迷いがある。それとされています。それ目、鼻、舌、身、意の六根にそれ、それ、悪、平の三種があり、以上十八種にそれぞれ浄（じよ）清める、染（せん）の二種があつて、合計三十六種を更に過去、現在、未来の三世にあてはめると百八つの数になるといわれます。それを一年の終わりにすべて払つてしまおうということから、除夜の鐘が撞かれるのだとされています。

（本城浄福寺・奥山住職より聞く）
除夜の鐘とは、直接関係ないことだが、いつか鎌倉市に旅した時、常栄寺（通称、ぼたもち寺）という珍しい名前の寺をお参りすることが出来た。そのお寺の額にはこのような

ことが書かれていた。

日常の五心

- 一、ハイという素直な心
- 一、スママセンという反省の心
- 一、オカゲサマという謙虚な心
- 一、ワタシガシマスという奉仕の心
- 一、アリガトウという感謝の心

〇 門松

本来、お正月の祝いは、年の初めに年神さまがそれぞの家を訪れ、幸福を授けてくれるという信仰にもとづいて、門松の意味は、この年（神様を迎えるための依り代）心霊の宿る場所といわれ、ま。お正月の飾りではなく、お正月を迎えるために必要なものだったので、元来、依り代としては、松、竹に限らず、常緑樹ならどんなものでもよかったです。室町時代に現在の形に落ち着いたようです。森泉社が、厳しい季節を迎えます。森泉社が、厳しい季節を迎えます。森泉社が、厳しい季節を迎えます。

（次頁へ）

(前頁より)
しの雪囲いやら、池の鯉を内
庭の池に移すなど冬の準備も
全部出来ました。
それでは、みなさん、よい

お正月を迎えるようお祈り申
し上げます。
○ 冬来たりなば 春遠からず ○
(森泉荘・施設長)

職員寄稿 (その1)

本日は入浴日
庄司明美

この秋一番の寒さという今日、道路には、氷が張り、霜も降りました。日ごとに冬の気配が深まりつつあるようです。そんな季節の移り変わりを肌にも感じながら、今日は森泉荘の入浴日でもあります。おはようございます。熱を測りますよ。」と寮母が各居室に入り、検温と同時に利用者顔色を見ながら体調をチェック。「どうだ、入るにいいが。」「なんぼあるべ。」の声に「どれどれ、合格だ。」入れますよ。」と答えるとニコリと安堵の顔。それからゆっくりと準備に取りかかります。午前中は一般浴。シャワーは、椅子に座ったままで

も浴槽に入れる、とても便利なもの、入浴が済むまで、それに座ったままでOKです。歩行困難な人も楽に入るのとが得意です。半身マヒとなつた人や、足腰が弱くなつた人が多いここでは、多くの人がシャワーカーを利用します。「迎えに来ましたよ。」「おー待ってら待ってら。」「早い人からは、おーいまだだが」と声がかかります。さっきまで気が進まなかつた人も、車で椅子で浴室まで連れていくともう服を脱ぎ始めています。また、今日は入浴サーブスの日でもあり、森吉町に住むお年寄り五人も来荘。短期入所でも何週間か一緒に生活した人の顔も見えます。声をかけると元気な声が返り、また、

短期入所中に同室であった人と、言葉を交わしている方もいます。何より皆さんが来荘するたびに、「有難い」と大変喜んでくれて、私たちの励みともなっています。午後は特浴。ねたきりの人が主で、横になつたまままで入浴します。浴槽内では下から気泡がブクブク立ち上がり、これもまた大変気持ち良さそうです。残念ながら入浴しなかつた人は本日三名。その中には、「ここに来れば何でもやつてもらえ、と聞いてきました。」が口癖だつたAさんもいます。衣服の着脱も、人の手を頼りにしてました。そんなAさんを、何度励ましたことでしょうか。手を貸すことは簡単です。

しかし何でもやつてあげることも、果たしてその人の為になるのか考えたとき、「できないときは手伝いますので、頑張ってみて下さい」とよく口にします。時には、どこまで手を差し伸べたらいいのか。その人にとつて負担となりすぎていないか、悩むこともありまう。けれども、不自由ながらも一生懸命に頑張っている利用者姿を見ると、やはり、残っている機能は十分に生かし、それを生きる励みとしてもらいたいと思うのです。そろそろ、午後の入浴も終了。心まですっきり暖まつた体で、間もなく訪れる冬を、みんなでも乗り越えて行きましよう。

(寮 母)

秋更けて

鍋料理の季節

嬉しや、蟹鍋

フーフー寒さを吹き飛ばす

二浦

イト (八十二歳)

十一月二十一日に本年度初めての鍋料理が行われました。その喜びを詩にして下いましたのでご紹介致します。

森泉荘に勤務して

柴田キエ

森泉荘へ洗濯のパートとして勤め、早や七年の歳月が過ぎました。知人より、「洗濯係として勤めてほしい。」と話があったときは、少しでもお年寄りの役に立てればと思ひ勤めさせてもらいました。朝のおしぼり、タオル、衣類、便器洗いが一日の仕事の主な内容ですが、入浴時の洗濯物の多さには、圧倒させられました。また、私が勤めたときは、便を落とす汚物除去機が入ってましたが、開設当時は、寮母さん達が便の着いたおむつを全部洗ってから業者に出していただきました。ご苦労が感じられました。現在では、毎朝ホールに集まってお年寄り達が私を見

てくださいます。おしぼり洗ったら持つてきてくれ。たたむから。と、声をかけてくれます。『おばさん、申し訳ないがこれ、洗ってくれませんか』と洗濯場の前まで自分で持つてくるおばあさんもおります。夏の暑いとき、外に洗濯物を干しているとき、『おばさん、暑いべ。大変だな。』と車椅子で廻りながら声をかけてくれる人もいます。毎日、お年寄りや職員の人達に手伝ってもらいながら、楽しく働くことができなく。今後も老人達が、きかねなく洗濯物を出してくるようになろう。老人物のコミニケーションをもちながら洗濯係として勤めていきたいと思っております。

(洗濯パート職員)

七月五日

葛蒲園ドライブ。一六名参加。併せて阿仁スキ―場、放牧地なども見学。

七月七日

七夕。短冊に願いを。

七月二十七日

森吉中学校生徒一五名五班に分かれ、一日ずつボランティア。(八月三日まで)

七月三十日

サマーショ―トボランティア。女子高生五名(八月二日まで)

八月一日

お盆帰省開始。第一号 簾内マスさん。

八月八日

盆供養。読経、講話は全館放送。

八月二十二日

弘前学院短期大学・現場実習。田崎雅子さん(森吉町出身)開始。(九月一八日まで)

八月二十七日

花火大会実施。地域の人達も多数参加。

九月五日

屋外昼食会。四八名参

加。秋空のもと、『だまっこ鍋』に舌鼓み。

九月一日

森吉町主催、敬老式。対象者、四〇名。

臨席家族一六組二六名最高齢・木本和吉

卒 米 寿 傘

寿・森川 トメ 九五歳 相馬 ノヨ 重夫

喜 寿 傘 八代 フヨ

野村 よしみ 九嶋 幸一郎

小笠原 ミサ 村上 彦松

清水 キク (敬称略)

十一月三日

十五夜。御供えを皆で作る。

十一月五日

秋季避難訓練。利用者心電図開始。

十一月二十四日

体重測定実施。

※その他、誕生会、自由ドライブ、大相撲星取り大会等が行われました。

★厚く御礼申し上げます

平成二年七月
平成二年一〇月

奉

慰問

七月 五日 米内沢更生保
護婦人会
七月 八日 新屋布婦人会
七月 二四日 阿仁部美容師
組合
八月 二日 若木 可奈子
(八月四日まで)
八月 八日 松浦 一樹
(八月一日まで)
九月 二日 森吉町民生委
員婦人部
九月 一三日 前田保育所

佐藤 守代 志
原 屋布 婦人 会
新 野 浦 重 雄
三 庄 司 恭 居
庄 司 善 居
阿 仁 理 容 師 会 前 田 地 区
長 藤 内 容 師 会 前 田 地 区
工 藤 内 容 師 会 前 田 地 区

伊藤 藤 秀 治
杉 谷 川 一 松
長 巢 業 改 良 普 及 所
鷹 巢 田 王 製 品 販 売 店
柴 北 花 支 店
東 北 山 支 店
秋 山 支 店
片 山 支 店
清 水 昭 三 子
木 村 エ ミ 子

☆新入所者紹介☆

平成元年一二月から平成二年一〇月末までに入所された方で平成二年一一月一日現在在籍されている方を紹介致します。

吉田 義美さん 森吉町	越前谷 友蔵さん 阿仁町	新林 政雄さん 阿仁町	石郷岡 ヨシさん 森吉町	村上 彦松さん 鷹巢町	村上 八ナさん 鷹巢町	木本 和吉さん 阿仁町
杉 秀松さん 合川町	杉 テイさん 合川町	柏 秀夫さん 森吉町	中 田 勇吉さん 合川町	長 岐 恒雄さん 鷹巢町	工 藤 フキさん 森吉町	以上一三名の方々です。

米内沢 婦人会
日本看護協会 秋田支部
鷹巢 阿仁 地産 業 区
日本 阿仁 支店
大 浦 田 小 支店
小 笠 藤 原 正明校
敬称は略させて頂いた頂きました。

◆ 今年の夏は、学生ボランティアが例年にもまして多数訪れた。将来私どもの仲間となつて社会福祉の現場で活躍される方もおられるとおもう。社会福祉の道を選ばなかつたにしても、ボランティアは失つてもうとす氣持ちだけアしようとする氣持だけア。ボランティアに訪れた方々の感想を特集としてまとめた。さまざまな感概を持たれたことと思う。それぞれの年代でそれぞれの立場で施設を見て、そこで活動し、入所されている方、働いてい分かつてもらえたとしたら幸いである。

◆ 今年の冬はどうも変だ。この文章を書いている本日は、天気予報(一月二九日)では、台風が上陸しそうだと言ふ。「雪を忘れた冬」の感が強い。暖かく過ごしやすくて、私にとつては最高なのだが、やはり、異常気象というしかないのかもしれない。



ボランティアが頑張ったよ!

今年の夏もまた、多くの学生がボランティアで森泉荘を訪れました。特集としてボランティアに参加された方々の感想を紹介致します。

1. 森吉中学校 (15名)

森吉中学校生徒15名は5班に別れ、クラブ活動の合間に1日ずつボランティアに訪れました。その人たちを紹介します。

1班	藤嶋	亜希子 (2A)	片岡	早月 (2B)
2班	武石	有香里 (3B)	庄司	美香 (3B)
	金沢	寿子 (3B)	森川	陸美 (3B)
3班	金	さおり (3A)	涌坪	亜紀子 (3D)
	春日	由香里 (3D)		
4班	安東	優子 (2C)	石川	琴子 (1B)
	新林	恵美子 (1B)		
5班	石川	真由美 (2C)	奥田	幸子 (2C)
	若松	沙織 (2B)		

以上の皆さんです。そして、8月27日に森吉中学校の赤石校長先生から次のような手紙が届きました。

『今日から2学期が始まりました。この度はお忙しい中、生徒に貴重な体験の機会を与えて頂き、ありがとうございました。

始業式でボランティアの体験を発表してくれた生徒の原稿をお届けします。指導して下さった皆様によろしくお伝え下さい。

とりあえず書面にて』(原文のまま)

ここに、発表された内容を紹介します。

サマーショートボランティアを体験して

森吉中学校3年

春日 由香里

この夏休み、私は学校で募集したサマーショートボランティアを体験しました。私は将来、看護関係の仕事に就きたいと思っているので「いい経験になるのでは」というのが、参加したきっかけでした。

実際やってみると、とても大変なものです。

私が、森泉荘に行った日は、お風呂の日でベットのシーツ換えや、お湯でぬれた体をふいたり、服を着せたりと、次々に仕事がまわってきました。ほとんどが、初めてのことで、服を着せるときなどは、そでをなかなか通せなくて、(どうしよう)と、あせったり、言葉も、ごによごによ、としか聞こえず、なにを言っているのかわからなくて、とまどうこともしばしばです。

でも、私が一番大変だと思ったのは、食事でした。食べるペースが、若い人とちがってとてもおそいからです。私がまかされたおばあさんは、飲みこんでも、口をむにゅむにゅさせていて、食べたのか、まだなのかわからずおろおろしてしまいました。寮母さん達を見ると、さすがにてきぱきしていて、あたりまえのことだけど「すごいな」と感心させられます。結局、私はおばあさんに全部たべさ

せれずに終わってしまいました。

午後は廊下の掃除と、おじいさん、おばあさん達と話をしました。私と友達は、一人で座っているおばあさんのところへ行き、いろいろな話を聞きました。おばあさんはお嫁にきた当時のこと、戦争のことなどを話してくれ、私達が質問すると、きちんと答えてくれます。家のことをきいたら、おばあさんは悲しそうになりました。こんなかたちで、家族とはなればなれにくらしていて、さびしいんだろう。よけいなことを聞いてしまったかなと、後悔しました。

その後は、担当の人と話をし、夕食を配って、一日の仕事を終え、森泉荘を出ました。やり終えた、という満足感と、あの時、こうすればよかった、という後悔の気持ちがいりまじっていました。同時に、私にこのような仕事が、きちんとつとまるだろうか、という疑問がうかんできました。しかし、今私の前にあるのは、受験です。夢を実現するためにも勉強しボランティアでの体験をばねに、希望校合格を目指して、がんばらねばと思います。

(原文のまま)

2. サマーショートボランティア

毎年、秋田県社会福祉協議会・郡社会福祉協議会が主体となり、秋田県と秋田県教育委員会が後援して行われるものです。当森泉荘でも、昭和62年に初めて女子高生4名を受け入れてから本年で4年目を迎えました。

本年は5名の高校生(女子)が参加。7月30日から8月2日までの4日間頑張ってくださいました。秋田県社会福祉協議会に提出した「サマーショートボランティア活動速報」よりボランティアの感想と施設からの一言をお知らせします。

サマーショートボランティアに参加して

石田 美穂

私は、今回初めてサマーショートボランティアに参加しました。初めのうちは、おばあさんたちと何を話していいのかわからず戸惑いました。2日3日たつにつれて、だんだん慣れてきて、冗談を言ったりしました。車椅子を押して、外に連れて行ってあげると「風あって気持ちいいー」といって、とても喜んでくれました。

初めのうちは、「早く終わればいいのに」

と思っていましたが、あつという間に過ぎてしまいました。

この施設は、静かで、のんびりしていて、過ごし易かったです。この中庭が気に入りました。

来年もまた、サマーショートボランティアに参加して、ここに来たいと思います。

(鷹 巣 高 校)



岩佐 里美

2度目のサマーショートボランティアでした。去年もやったので、気軽に考えていて、少し失敗してしまったこともありましたが、けれども、寮母さんや寮父さんなどに、細かいところまで教えてもらったので、だんだんと日にちがたつにつれて慣れてきました。

おばあちゃんたちも初めは慣れていなかったらしくて、あまり、話かけてくれませんでした。

したが、そのうちに、「水ッコ飲みてー」とか「外さつれていってけねがー」とかと話かけてくれてすごくうれしかったです。

このサマーショートボランティアの3泊4日は長いようですごく短かったです。もう少し長くボランティアをしていたかったです。

(鷹 巣 高 校)



畠山 淳子

初めて、このサマーショートボランティアに出席したので、全然何をどうやったらいいのか、はっきりいって解らなかつただけで寮母さんや先輩たちからいろんな事を教えてもらって、少しずつだけど、解るようになりました。

またこの他には、おじいさん、おばあさん達と話をするときも、あまり話をした事がなかったので、変に敬語を使ってしまって、意

味が通じず、うまく話せなかつただけど、だんだん日がたつにつれて、結構いろんな話ができるようになったのに、もう3泊4日のサマーショートボランティアが終わりそうです。今度また、もしやる機会があったら、また、サマーショートボランティアに参加したいと思います。

(鷹 巣 高 校)

去年も参加して今年は2回目だったわけですが、去年以上に、入所者の人達とおしゃべりとか、できたのでよかったです。初めに施設長さんが、「教科書には書いていない事をたくさん勉強して行って下さい。」と言われて、そういう、教科書には書いていない事がたくさんあればいいなァ・・・って思ったんです。私の期待通り、本当に、ふれあわなければ解らないような事ばかりでした。

「貴重な体験」の3泊4日は、あまりにも短すぎて、まだまだここにいて、寮母さんたちと一緒に、いろんな仕事をしていきたいです。また機会があったら、ここに遊びに来てたくさんおしゃべりとかしたいです。「ふれあい」たいです。最後に、短い間でしたがお世話になりました。

遊びに来るからね！！

(米内沢 高校)



山田 久美子

3泊4日という短い間に、いろんな事を学ぶことができました。去年も参加したので、去年よりは、入所者の人達とのおしゃべりは、進んで来たと思います。それと、去年よりホールに来て、ご飯を食べている人が増えていたのには、驚きました。

日中、天気が良かったので、車椅子で散歩に行きました。みんな「いー風だ〜！」と、気持ち良さそうにしていました。入所者の人たちも、私たちに気軽に話かけてくれたので

うれしかったです。

車椅子からベットに移すとき、「あ〜上手だ。」とってくれたので、よかったです。

去年は緊張で疲れたけど、今年は、すごく楽しくて、まだまだやっていきたいです。職員のみなさん、4日間、どうもありがとうございました。入所者のみなさん、また遊びに来ます。

(米内沢 高校)



〔施設から一言〕

今回は、鷹巣高校3名、米内沢高校2名（内3名経験者）と言う事で実施しました。ほぼ同年齢ということもあって、まともには大変に良かったと思います。

4日間を通して、お年寄りと散歩をしたり、話をするのが、楽しかったようです。食べ物の介助が思うように行かず、大変だったようです。

ただ、遠慮せずにもっと職員に質問して、いろいろな事を確認してほしいと思います。

ストレッチャー、車椅子、特浴過程の介助をする、介助を受ける体験をしていただきました。こうした体験を通して、介護を受ける側の気持ちを少しでも理解しようとする姿勢を、身につけていただければ、すばらしいボランティアとして、育っていつてくれるのではないかと考えています。

(森泉荘：生活指導員 松橋 照己)

3. 個人ボランティア

個人的には2人の方がボランティアとして頑張ってくれました。「ボランティア雑感帖」よりお2人の感想をお知らせします。

(ボランティア期間：8月1日～8月4日)

若木 可奈子

8月3日(金) 快晴

この森泉荘での体験ボランティアも3日目に入りました。おじいちゃん、おばあちゃんと話をしたり、御飯を食べさせたり、入浴の手伝いをしたり、ここでやる仕事は、自分にとって一つ一つが新しい事ばかりです。

おばあちゃん達と会話をしているとすごく素直になれます。これを機会に、少しでも自分が成長することができたら、大収穫です。

お金にかえられない貴重な体験でした。
明日一日頑張るゾ!

8月4日(土) 快晴

感想は前日の通りです。

お世話になりました。もし、今度来る時は“あいぼう”を連れてきます。
ありがとうございました。

(鷹 巣 農林高校)

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

(ボランティア期間：8月8日～8月11日)

松浦 一樹

私はボランティアというものを初めてやったわけだが、自分で考えていたイメージと全然違ったものだというのが率直な感想であった。というのは、おじいちゃんやおばあちゃんたちに、気をつかうこともなく、(地元だから言葉が通じたのが良かったのかもしれないが)自分の祖父母と接しているような感じがした。

また、職場的にも明るく、解らない事があっても、自然に尋ねられるというところもあり、自分ながら初めてにしては、まあまあうまくいったと、自己満足している。本当の介護というものを知らないでこんなことを言うと寮母さんたちにおこられるかもしれないが

“楽しくて、やりがいのある仕事だな”と思った。

このように良い思い出(経験)を残す事ができたという事は、これから自分の進んでいく道(大きな意味で言えば福祉)に大きな励みになると自分自身思っている。

近いうちに今度は、精神薄弱者施設で実習することになっているが、この森泉荘での経験(ボランティアの心)を十分に生かせたら良いと思っている。

みなさん、本当にお世話になりました。またいつか来る日まで、さようなら。

(流通経済大学・社会学部・社会学科3年)